



岩手よもつ 2009

鍛えられ、 たくましくなった1年

株式会社エツリコエンジニアリング
展開グループ 滝田 麻美さん



昨年12月で入社丸2年を迎えました。入社半年後にCADシステムで設計を行う展開グループに配属され、まったく初めての経験のため、基礎の基礎から上司に教わってきました。おかげさまで昨年2月からは、本格的な展開作業も任されるようになりましたが、まだまだ覚えなければならないことがたくさんあります。

私の仕事は、現場で一番最初の工程になります。私がミスすれば、検査の段階まで行った製品が、また元に戻ってきてしまいます。当初は、私のミスでみんなに迷惑をかけたこともあり、重い責任を感じ、すごくつらかったこともありましたが、でも、上司の方をはじめ、みんなに励まされ、支えられてきました。最近は複雑なものにも挑戦させていただき、難しいものが完成した時には喜びと共に充実感を感じています。

弊社は若い人にどんどんチャンスを与え、大切に育ててくれる会社です。私も日々、勉強の毎日です。自分の成長につながることで、勉強もすごく楽しく感じています。今年もさらに成長できるように頑張ります。

■株式会社エツリコエンジニアリング 菊池公二郎社長／北上市
工作機械のカバーの設計・製作など

危機感を共有し、 気持ちを一つに

株式会社三和ドレス
ジャケット班班長 工藤 由美子さん



昨年の景気悪化の影響は、百貨店の売上げ減少につながり、高級ブランドの婦人フォーマルウェア作りを柱にしている弊社も、小ロット生産を余儀なくされております。しかしながら、経営幹部のみならずのご努力のおかげで、人員削減などの厳しい状況には至っておりません。私たち現場としては、あらゆる無駄を無くし、これまで以上に生産効率が上がるように努めているところです。

アパレル業界だけでなく、あらゆる業界が危機感を感じているのが、今の日本の現状です。私たちもその危機感を共有し、「私ひとりくらいは、今のままでいいや」という気持ちではなく、「こんな時だからこそ全員が心を一つにして」という自覚を持ち、危機を乗り越えていくことが大事だと考えています。

弊社には技能五輪で優秀な成績をおさめてきた実績があります。どこにも負けない高い技術力と高い意識が継承されております。2009年も、全社員がその誇りを忘れず、高い付加価値を持った製品作りで一生涯懸命取り組んでいけば、明るい1年になると思っております。

■株式会社三和ドレス 大沢孫蔵社長／二戸市
世界的ブランドを含む高級婦人服、スーツなどを生産

今年是新工房建設と 新製品発表に集中

株式会社サーガ
取締役 佐々木 知子さん



弊社の「我杯(ワガハイ)」は、使う人の握り型をそのまま彫り込んだ木製の杯です。山桜など岩手の素材を、コンピューターのテクノロジーを使って削り上げ、漆を塗り、底材に南部鉄器を用いたもので、岩手の伝統的な技術と素材を生かし、新しい発想で製品化しました。会社設立2年目の2007年には、「我杯」で『いわてビジネスブランングランプリ』を受賞。08年は東京ビッグサイトのギフトショーに単独出展し、「新しい付加価値を探していた」という関東、関西方面の方々にも注目されました。しかし、全てが順調だったわけではありません。

長い伝統を持つ、いわば職人の世界に生きてきた方々にとって、IT分野から進出した私たちは新参者でした。

「岩手の伝統産業を新発想で盛り上げたい」という私たちの思いがなかなか伝わらず、創業の難しさや「ベンチャー心」という概念を体感した1年でした。

09年は、夏過ぎに田沢湖畔に新工房を建設する予定で、規模が3倍になります。新製品も3つ出します。大変ですが、思い出すに残る年にしたいと思っています。

■株式会社サーガ 高橋和良社長／盛岡市
地場産業とIT技術の融合でユニークな把持体製品などを製作

自ら営業に出て、 チャンスをつかみ取る

株式会社岩本電機
製造課主任 松村 佑介さん



世界的な景気減速は、私たちハーネス部品を製造している業界にも影響を与えています。弊社は、温度センサー関係、モーター関係、冷蔵庫関係、自動車関係と大きな柱が4つあることで、リスクが分散されています。不況の影響も「原則として残業はしない」という程度ですが、柱が一つしかない会社では倒れるところも増えてきています。弊社にも最近、いきなり新規の仕事が飛び込んできました。

私はこれまで社内での仕事が多かったのですが、最近は営業もやらせていただくようになりました。営業に関しては右も左も分からない状態ですが、会社・大学の先輩である社長を見習い、日々頑張っております。ピンチはチャンス。営業を頑張る、ここを耐えれば、多くの仕事を受注できる大きなチャンスが開ける。これが、営業をやるようになっての私の実感です。言葉は悪いようですが「根こそぎ仕事を取ってやろう」という意気込みでいます。そしてこのチャンスを実感につかみ取っていくには、納期を確実に守ることは当然で、さらにそれを超えるスピードが大事だと思っています。

■株式会社岩本電機 岩本明佳社長／洋野町
OA機器・通信機器・家電・自動車部品のハーネス部品製造など

と元氣になれ!!

先の見えない不況。

そんな中でも「これを自己改革のきっかけに」「ピンチこそチャンス」と前向きに捉えている人も多い。各企業の若手リーダーに、その声を聞いた。

独自技術開発に挑戦し、さらに強い企業に

有限会社ジーエフ・トップ
第2製造課係長 村上 大悟さん



昨年は展示会、工場見学、講習会、講演会と外に出してもらった機会をたくさんいただき、自社以外の状況を知ることができました。それにより勉強になったこと、自信を持てたこと、考えさせられることがあり中身の濃い充実した1年でした。

特に印象に残っているのは、世界でもトップレベルにある、某金属加工機械メーカーの工場を訪問したときのことです。工場の規模や管理体制を始め、すべてに驚くことばかりでした。なかでも感心したのは、モノがうまく流れるように、すごく工程が整理されていることでした。それは、生産性向上のさまざまなことにつながる基本ですので、すぐに取り入れていきたいと思いました。

また、他社にない独自の技術を持っており、「こういう企業は強いなあ」とあらためて感じました。

私どもの業界も不況の波をかぶっております。しかし、減産等で生じた余力を、独自技術を開発する力にシフトするなど、マイナスをプラスに転じる好機と捉え、あらゆる事に挑戦していくことが大事だと考えています。

■有限会社ジーエフ・トップ 後藤辰男社長／金ヶ崎町
各種精密金型の部品製作・製造など

ニーズとトレンドを、敏感に捉えて

銀河フードサービス「小十郎グリル」銀河モール花巻店
ホール主任 村田 麻美子さん



地域最大級の大型商業施設として話題を呼んだ「銀河モール花巻」のオープンは昨年4月。弊社も施設オープンと同時に入店し、昔なつかしい洋食メニューと、創作料理的な洋風和食を中心に運営をスタートさせました。開店直後に大型連休があり、夏休み、お盆と、お客様の来店は好調に推移しました。秋に少し落ち着いた時期がありましたが、12月に入り再び盛り返しました。

ふり返ると、昨年は新しいデータの収集とノウハウの蓄積ができた年でした。弊社は「小十郎グリル」等の展開のために新しく設立された会社で、銀河モール花巻店は1号店。何もかもが初めての経験でした。メニューも当初の頃より、洋食の定番やピスタ、ピザなどがよく出ることが分かり、12月には種類を増やしました。

今年は、昨年のデータを分析し、これまで以上にお客様のご要望をスタッフ全員で感じ取り、またトレンドも敏感に感じ取って、お客様のニーズを捉えたメニュー構成で、たくさんのお客様による喜んでいただきたいと思います。

■株式会社銀河フードサービス 佐々木村雄社長／花巻市
「小十郎グリル」などの事業展開のために昨年設立

経験を重ね、マシニングを自分のものに

株式会社小林機械
製造課 瀬川 翔太さん



2007年3月に入社し、製造課で半導体製造装置などの部品製造に携わってきました。ずっと手動の工作機械を担当していたのですが、昨年2月から大型のマシニングセンタの操作を任せられるようになりました。最初は「難しそうだな、自分でできるだろうか」と不安になったこともありました。先輩に教えていただきながら取り組み組んできました。同期や近い先輩の方々とも、いろんな経験を話し合いながら、互いに高め合っています。

先輩の指導を受けるたびに、「ものづくりは、やはり経験が大事だな」と、つくづく感じています。工作機械は進歩し、プログラミングを正確に打ち込めば、あとは機械が自動的に作業をしてくれる時代になっています。

しかし、高い品質を維持していくためには作り手の感性や経験も大事だという気がしています。刃物の回転数をどうするかとか、材質の特徴などについて、マニュアルだけでなく、先輩の経験を聞いたり、いろいろ確認をするように心掛けています。今年はさらに経験を積み、機械を完全に自分のものにしていきたいと思っています。

■株式会社小林機械 小林康行社長／奥州市
半導体・液晶部品製造装置組立、自動車金型部品製造など

自分の視点で考古学の魅力を開く

株式会社ラング
北田 暁香さん



弊社は、地形情報処理技術を応用した独自の「ラングシステム」を開発し、考古遺物(石器、土器など)の形状計測や図化の省力化、高精度化を実現しています。私は2008年1月に入社し、コンピューターの知識やオペレーター業務の経験も何もありません。この業務にたずさわることになりました。学生時代に芸術を勉強して、絵を描くことは経験していても、考古学の分野に触れるのは初めて。最初はわからないことが多かったのですが、しだいに考古学への興味も開かれ、その魅力も少しずつわかってきたような気がしています。以前は水晶のような石が魅力的かなと思っていたのですが、今は何万年も前の人の手が増えられた石に「理由があってこの形があるんだ」と魅力を感じています。この1年で道端にある石の見方も変わりました。

弊社はまだ若い会社です。経営側との垣根も低く、何でも気兼ね無く話ができて、現場のアイデアもどんどん聞いていただける環境にあります。今年は自分自身の視点でも、考古学にかかわっていただきたいと思います。

■株式会社ラング 横山真社長／盛岡市
情報処理技術と考古学を結びつけた文化財アーカイブ事業など